



〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263)53-8802

FAX (0263)51-1290

E-mail: sogokyoiku-kikaku@pref.nagano.lg.jp

目次

「産業教育MIRAIフェア2024開催のご案内」……………	p.1
「今年度の研修講座の様子」……………	p.2

長野県高校生探Qフェスティバル2024との合同開催

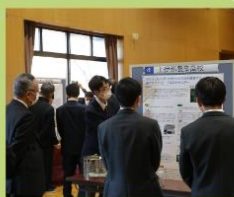
産業教育MIRAIフェア2024開催のご案内

県内の農業・工業・商業・家庭・福祉、そして総合学科の高校生たちが、日頃の学習成果をポスターセッションやワークショップで発表します。さらに、心を込めて作った作品や商品を展示販売します。高校生たちの実践的な学びと創造力を間近で体験するチャンスです！また、今年からは探Qフェスティバルと合同開催となり、県内高校生による探究活動の成果もご覧いただけます。

中学生の皆さんにとっては、これからの進路を考えるきっかけにもぴったり！高校生の先輩たちの活躍や学びの成果を見て、自分の未来を描いてみませんか？ご家族や友人と一緒に楽しめるイベントですので、ぜひお気軽にお越しください！皆さんのお越しをお待ちしています！

ポスターセッション・ワークショップ

ポスターセッションやワークショップとは、研究結果などを発表する手段の1つです。発表者が、発表内容を図やグラフなどを用いてまとめたポスターや、制作した作品を参加者の前でプレゼンおよび質疑応答します。



展示販売

展示販売とは、県内の専門・総合学科等の高等学校に学ぶ生徒が、実習等において制作した作品、物品、生産物及び実習取扱商品などを販売するものです。心を込めて作った作品や商品が並びます。



未来をつくる高校生の
の力を見に来よう！

2024年12月14日（土）
長野県総合教育センター

- ◇ 日程：展示販売：午前11時30分から午後1時20分まで
ポスターセッション・ワークショップ：午後1時20分から午後3時30分まで
- ◇ 発表内容：① ポスターセッション ② ワークショップ ③ 展示販売
- ◇ 主催：長野県教育委員会
- ◇ 後援：長野県産業教育振興会



<https://www.edu-tr.pref.nagano.lg.jp/kensyu/seito/mirai.html>

講座の概要

筑波大学人間系の清水美憲教授にお越しいただきました。午前は、数学的活動の充実とその意義についてご講義いただき、午後は、中高連携を意識した授業実践について、対話型演習を行いました。

講義

具体的な問題から、数学的活動とは何かを学びました。答えが出たら終わりではなく、条件を変えて問いを発展させるなど、まずは教師自身が授業を楽しく、面白くしていこうとする心持ちが大切であることを教えていただきました。そのうえで、ある問題や課題に対する答えが出た後の授業展開について、受講者同士が実際の場面を想定して考え合いました。数学的な見方・考え方を働かせながら学習することの楽しさや面白さを、教師が体験する貴重な機会となりました。



演習

グループ内で、授業を行う上での悩みや授業実践の工夫について共有しました。導入場面で重視していることなど、中学と高校では異なることが多く、中学の学びが高校にどのようにつながるのか、中学でどのような学びをしてきたのかを互いに質問し合いながら、グループで積極的に対話する姿がありました。その後、講義や対話を基に授業計画を立て、グループで協議・意見交換を行い、中学と高校との連携の在り方について考えました。数学的な専門用語や表現の活用、導入場面や問題設定での日常事象の活用など、中高の工夫を互いに取り入れながら、授業計画を練ることができました。



◆◆受講者のふりかえりから◆◆

- 中学では導入の教材研究を、また、高校では専門性を重視している先生が多いことを実感した。
- 数学の問題を解いて終わりにするのではなく、条件を付けたり、逆に緩めたりして、更に一步踏み込んでいくなど、生徒自身が追究したくなるような授業の構想を考えたい。

R6.8.9 信州大学教職大学院連携講座

学級づくり・学校づくり

in 信大長野キャンパス図書館2階

学級づくりの根底にある 私の観を見つめよう

私たちに無意識のうちに大切にしている学級観や子供観があります。一人一人、その価値観は様々です。たまにこうやって自分自身を振り返ることは、新たな価値観に触れていくきっかけになります。



昔の私と今の私を比べ、変わってきたと感ずること

- ◇教師がこうしたい⇒子供は何をしたいのか
- ◇教師の思いや理想の押し付け⇒主役は子供
- ◇こうでなければならない⇒生きているだけで素晴らしい
- ◇自分の思い通りにならない子を注意⇒そりゃそうだよね
- ◇問題行動への指導⇒その子のよいところを認める支援
- ◇はみ出してしまう子の統制⇒行動の背景を考えたい
- ◇自分がリーダー⇒リーダーは子供たち
- ◇理想の学級、子供像を求めなくなった
- ◇「全員で」を求めなくなった それぞれのできることを
- ◇教師が引っ張っていき⇒子供に任せてみよう
- ◇One for All, All for One⇒子供一人一人が輝く学級
- ◇問題を起こしてはいけない⇒問題があっても当たり前

変わったきっかけは？

- 生死にかかわる児童とのつながり
- 数多くの失敗やクレーム
- 立場の変化(全体を見ていく必要性)
- 自分自身も親になったこと
- 多様な考えの子供や保護者が増えて、もっと話を聞かないといけない状況になった
- 特別な支援が必要な児童生徒との出会い
- 子供の反発 もっと見てほしいという声の裏返し
- 素敵な先生との出会い その先生のコメントや行動
- 寛容な S 先生が作る学級で生き生き暮らす児童
- 私が欠点だと思っていたことを、認め、許し、良さとして価値づける同僚の姿から

私の価値観は、職場の同僚、子供たちの姿がきっかけで変化したという声が圧倒的でした。学級づくりの正解は決して一つじゃない。悩みながら、失敗を重ねながら、そして、多くの先生方の思いや経験に触れながら私たちの「観」は更新されていきます。皆さんの職場でも自身の変化を語り合ってみませんか。たった 15 分できっと見方が変わるはずです。